



Title	基調講演：韓国における日本研究の現状と展望 「日本研究所」・沖縄・柳田國男
Author(s)	金, 容儀
Citation	グローバル日本研究クラスター報告書. 2019, 2, p. 11-19
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/72081
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

基調講演

韓国における日本研究の現状と展望

—「日本研究所」・沖縄・柳田國男—

金容儀

1. はじめに

去る 2010 年は、「韓国併合（庚戌国恥）」100 周年を迎える年であった。5 月にはソウルと東京で同時に「韓国併合 100 年韓日知識人共同声明」が発表されるなど、両国で様々な催しや行事が開催された。

そうした中、私は韓国の「日本研究者」の一人として、今までなにを、なぜ、研究してきたのかを振り返り、これからなにを、どのように研究していくべきかという、研究方向を模索する時間を持つとつとめた。その模索の過程において、韓国における「日本研究の現状と課題」について思案をめぐらし、まず韓国の大学に設立された「日本研究所」の現状と課題についてまとめることができた¹。また私の主な研究課題である柳田國男研究や沖縄民俗研究を進めるために、「韓国における柳田國男の研究」²や「韓国における沖縄民俗の研究」³の現状と課題について調べることにした。本稿では、それらの成果の一部を順に述べさせていただきたい。

2. 韓国における大学の「日本研究所」の現状と課題

韓国における「日本研究」の現状と課題については、韓国国内でも今まで多くの研究者によって様々なかたちで報告されてきた⁴。しかし、それらの報告のほとんどは、韓国の大学に設立された

¹ 論文の形にまとめて次のように発表した。本稿では、その成果の一部を要約して述べたい。金容儀「일본학 연구의 현황과 과제-국내 대학교의『일본학 연구소』를 대상으로（日本学研究の現況と課題—国内大学の『日本学研究所』を対象にして）」『日本語文学』46, 2010 年, 韓国日本語文学会。

² 韓国・朝鮮文化研究会から出されている会誌に、次のような題で発表した。金容儀「韓国における柳田國男の研究」『韓国朝鮮の文化と社会』16, 2017, 風響社。

³ 調べた内容の一部は、2018 年 3 月に沖縄で行われた沖縄民俗学会例会において、「韓国における沖縄民俗研究の現状と課題」という題で口頭発表をした。

⁴ 例えば、韓国日本学会の機関紙『日本学』の第 39 輯（1997）では「동아시아의 일본론-현황과

「日本学科」⁵や日本研究者の学術活動の拠点としての「学会」⁶だけを取り上げ、大学に設立された「日本研究所」⁷が注目されたことはあまりない。

私はこれから韓国において「日本研究」の成果をあげるには、「日本学科」や「学会」ではなく、「日本研究所」の役目が重要であると考えている。なぜなら、2011年の東日本大震災以降、韓国の国内事情とも絡んで、大学の「日本学科」は縮小や廃止を余儀なくされ、今でも厳しい状況が続いているからである。当然会員のほとんどが大学の「日本学科」の教員で構成される学会の事情も厳しいと言わざるをえない。また「学会」のほうは、主に日本語、日本文学、日本学（主に日本語と日本文学を除いた分野という意味で使われることが多い）という三つの分野の研究者の「寄せ集め」のような形で運営される。あえて言うなら、「学会」としての専門性に欠けていると言っても過言ではなかろう。

このような事情から、これから大学の「日本研究所」の活性化は、韓国における「日本研究」の発展のために欠かせないものだと言える。韓国には、2018年現在、合わせて13カ所の「日本研究所」が設立されている。次の〈表1〉は、それらの「日本研究所」のリストである⁸。

전망 (東アジアの日本論—現況と展望)」という題で特集として扱っている。また2003年に開催された第1回韓国日本学連合会の国際シンポジウムでは、「일본학 연구방법의 재조명 (日本学の研究方法の再照明)」というテーマで議論が行われた。

⁵ 大学によって「日本学科」, 「日語日文学科」, 「日本文化学科」, 「日本言語文化学科」など、様々な名称が使われている。ここでは便宜上「日本学科」によぶことにしたい。

⁶ 筆者の調査によると、韓国では次のような学会が「乱立」している。韓国日語日文学会, 韓国日本学会, 大韓日語日文学会, 東アジア日本学会, 日本史学会, 韓国日本語文学会, 韓国日本近代学会, 韓国日本文化学会, 韓国日本思想史学会, 韓国日本語教育学会, 日本語文学会, 韓国日本語学会, 韓国日本言語文化学会, 現代日本学会, 韓国日語教育学会 (全部で15学会)。

⁷ 研究所の名称には「日本研究所」, 「日本学研究所」, 「日本研究センター」, 「日本文化研究センター」などが使われている。ここではまとめて「日本研究所」とよぶことにしたい。

⁸ 設立されてはいるが、学術活動が確認できない一部の研究所は除いた。

<表 1> 韓国における大学の「日本研究所」の現状（2018 年現在，13 ヶ所）

研究所の名称	創設	所属大学	学術誌	学術誌 の創刊年度	主な学術活動 (学術叢書出版など)
日本研究所	1979	中央大学校	日本研究	1980	国内・国際シンポジウム
日本学研究所	1979	東国大学校	日本学	1981	国内・国際シンポジウム 日本学叢書
国際地域研究 センター 日本研究所	1990	韓国外国語大学校	日本研究	日本文化研究 (1985) から変更	国内・国際シンポジウム 日本研究叢書
日本学研究所	1994	翰林大学校	翰林日本学	1996	国内・国際シンポジウム 翰林新書叢書， 日本学研究叢書
日本研究 センター	1999	高麗大学校	日本研究	2002	国内・国際シンポジウム 日本学叢書， 日本名作叢書， 現代日本叢書など
日本研究所	2000	釜山大学校	未刊	1982	日本学叢書
日本研究所	2002	壇国大学校	日本学研究	1997	国内・国際シンポジウム 日本研究所叢書
日本学研究所	2002	国民大学校	日本空間	2007	人文社会科学 融合研究所， 国内・国際シンポジウム 日本研究論叢
日本問題 研究所	2002	明知大学校	未刊		1988年に出発
日本研究所	2003	ソウル大学校	日本批評	2009	国内・国際シンポジウム 日本学研究叢書
日本研究 センター	2003	東西大学校	次世代人文社 会研究	2005	国内・国際シンポジウム 韓日次世代 学術フォーラム (2018年，15回)

日本文化研究 センター	2004	全南大学校	未刊		国内・国際シンポジウム 研究センター叢書
日本学国際比 較研究所	2009	漢陽大学校	比較日本学	2009	国内・国際シンポジウム

＜表 1＞を見ればわかる通り、多くの研究所から学術誌が出されている。それらの学術誌は研究所によって、年 2 回あるいは年 4 回刊行されているものもある。学術誌の名称は、「日本研究」・「日本学」・「日本学研究」・「日本空間」・「日本批評」・「比較日本学」などである。ところが学術誌に掲載された論文の主題や内容を分析してみると、一部の学術誌を除いては、多くの学術誌が日本語、日本文学、日本学という三つの分野のものが混在している⁹。これは「学会」の会員が三つの分野の研究者の「寄せ集め」のように構成されていることと同様である。要するに学術誌を出している日本研究所の専門分野をさだめ、学術誌の専門性や特性を目指すという方向に欠けている。

また多くの研究所がいわゆる「叢書」を出している。ところが大雑把に言えば、それらの叢書にも専門性や特性はあまり認められない。研究者に提供する目的で研究資料を持続的に収集して「叢書」としてまとめているわけでもない。研究資料の収集及び集積は、大学に設立された研究所として当然行なうべき研究活動の一つであろう。

もちろん物理的にそれぞれの「日本研究所」に研究課題を与えとか、研究領域を分けることは不可能であり、またその必要性もない。しかし総計 13 カ所にもなる「日本研究所」が設立されているのであるから、これからは研究分野における専門性や特殊性を目指す必要はあるのではないだろうか。

他にも、韓国の「日本研究所」が担うべき役目は多いであろう。例えば国内及び海外の日本研究者とのネットワークの構築である。特に国際交流のためには、海外（日本）の研究者とのネットワークが重要である。例えば、韓国の大学に設立された「日本研究所」の研究者と日本の大学に設立された「韓国学研究所」（もしくは「日本研究所」）との間に、交流を広めていくのも一つの方法である。

また「日本研究所」で得られた研究成果の社会への還元や大衆化をはかることも重要である。韓国社会における「日本研究」への需要は多い。大学に設立された「日本研究所」を一つの拠点として、韓国社会における「日本研究」の需要に充分に対応できるシステムの構築が必要である。その

⁹ 「学会」のほうは、大体日本語、日本文学、日本学の三つの分野の研究者で構成され、また学術誌のほうも日本語、日本文学、日本学という三つの分野に分けられるというのは、韓国における「日本研究」の大きな特徴の一つであろう。要するに韓国の「日本研究」においては、あいかわらず「日本語文学」のほうが中心をなしている。この傾向については、東アジアの国々とも比較してみる必要があるであろう。

ようなシステムとして, 市民講座の開設, 見学旅行, 座談会などが考えられる。

3. 沖縄民俗研究における主な傾向

私は 2002 年に約五か月の間, 沖縄に滞在し, 沖縄民俗の調査を行い, 沖縄民俗を取り上げた論文を発表した¹⁰。また沖縄の説話集などを韓国語で翻訳して紹介している¹¹。今でもつとめて沖縄から東アジアをながめようとしている。

韓国における沖縄民俗への関心は, 大衆的なレベル, あるいは学術的なレベルを問わず, かなり高いようである。例えば泡盛, 亀甲墓, 洗骨葬, 御嶽, 豚文化, エイサー, 綱引きなど, 沖縄の民俗文化についての知識を持っている人々は意外と多い。このような沖縄民俗についての知識やイメージは, 映画, 観光案内書, ポスター, ドラマなどによって広まったものと思われる。2009 年 11 月に創立した琉球沖縄学会¹², 2017 年に創立した済州沖縄学会は¹³, 韓国における沖縄への視線の熱

¹⁰ 参考までに, 私の書いたいくつかの論文のリストを記しておく。

「오키나와 다케토미지마의 지역의 우타키 신앙 (沖縄の竹富島における御嶽信仰)」『日本語文学』20, 2004, 韓国日本語文学会。「『遺老説伝』에 나타난 오키나와인의 용궁세계 (『遺老説伝』に表れた沖縄の竜宮世界)」『日本語文学』43, 2009, 韓国日本語文学会。「『遺老説伝』 우타키 유래설화의 양상과 유형 (『遺老説伝』의 御嶽에まつわる説話의 様相과 類型)」『日本語文学』45, 2010, 韓国日本語文学会。「『遺老説伝』에 전하는 오키나와의 비주르 신앙 (『遺老説伝』に伝わる沖縄のビジュアル信仰)」『日本語文学』47, 2010, 韓国日本語文学会。「오키나와 아예야마 지역의 낙원 전설: 하테루마지마의 파이파티로마 전설 (沖縄八重山地域の樂園伝説: 波照間島のパイパティローマ伝説)」『日語日文学研究』80, 2012, 韓国日語日文学会。「『遺老説伝』 관음설화의 유형과 양상 (『遺老説伝』における観音説話의 類型과 様相)」『日語日文学研究』85, 2013, 韓国日語日文学会。「오키나와 오고예와 조선시대 불교회화의 비교 (沖縄の御後絵と朝鮮時代の仏敎繪畵의 比較)」『日本文化学』60, 2014, 韓国日本文化学会。「오키나와 설화에 전하는 인간과 돼지의 성적 교섭의 양상 (沖縄説話に伝わる人間と豚의 性的な交渉의 様相)」『比較日本学』32, 2014, 漢陽大学校日本学國際比較研究所。「사키나 고에에 남도설화의 성적 해학성 (佐喜真興英의 南島説話における性的な諧謔性)」『日本語文学』63, 2014, 韓国日本語文学会。「오키나와의 요괴 기지 무나의 다중적 신격 양상 (沖縄의 키킴나における多重的의 神格)」『日本文化学』64, 2015, 韓国日本文化学会。「오키나와 우의 설화의 유형과 특징 (沖縄의 羽衣説話의 類型과 特徴)」『日語日文学研究』92, 2015, 韓国日語日文学会。「오키나와의 <남자와 가오리이 성교> 민담의 서사구조 및 특징 (沖縄의 <男とエイ의 性的交渉> 譚의 構造와 特徴)」『日本研究』45, 2017, 中央大学校日本研究所。「오키나와 우의 설화의 왕권설화로서의 성격: 아래자 설화와의 비교를 통해서 (沖縄의 羽衣説話의 王權説話としての性格: 夜來者説話との比較という視点から)」『日語日文学研究』100, 2017, 韓国日語日文学会。

¹¹ 次のようなものがある。『유로설전—오키나와 민족설화집 (遺老説伝)』2010, 全南大学校出版部。『오키나와 구전설화 (南島説話)』(佐喜真興英著) 2015, 全南大学校出版部。『오키나와 사람들의 한해살이 (沖縄生活誌)』(高良勉著) 2016, 民俗苑。

¹² この学会では, 2016 年までに合わせて 11 回にわたる國際學術大会を主催した。

¹³ 2017 年韓国の済州島研究者と日本の沖縄研究者が中心になって創立された。

さを語ってくれている。

沖縄民俗に限らず、韓国では早くから「沖縄」について研究が行われてきた。例えば考古学や、歴史学からのアプローチとしては、稲作文化や洗骨葬についての研究が取り上げられている。また民俗学においては、民具や生活文化における類似性、親類制度の類似性などが注目されてきた。そして社会人類学的立場からは主に沖縄の社会構造と韓国の社会構造の比較が行われた。

韓国における沖縄民俗についての主な研究を分析してみると、「比較民俗」が非常に目立つことがわかる。この場合、当然「誰が、何を、何のために、どのように比較しているのか」ということが問われるべきであろうが、一つだけ結論を先に述べると、韓国の研究者の間では、韓国民俗と沖縄民俗の間に見られる類似性・共通性・親近性への関心が非常に高い¹⁴。

特に「文化伝播論」の視点からのアプローチが目立ち、沖縄民俗を身近な文化として認識しようとする傾向が強い。例えば韓国の古代小説の主人公であり民衆の英雄でもある洪吉童と、八重山地域のオヤケアカハチを同一人物のように比較しているものなどが、その一つの典型的な事例である。こうした韓国と沖縄に見られる文化的類似性への関心から、今では「民族的連帯感による旅行商品の開発を模索」しようとする研究まで提案されるようになった¹⁵。

韓国の民俗学者の沖縄への関心は、日本における「沖縄民俗」への関心に影響されたところが多いようである。このことは、1990年代まで韓国の民俗学をリードしてきた多くの研究者が、かつて日本の大学に留学し、日本で民俗学を学んだことと関連がある。つまり柳田國男や折口信夫の沖縄への関心から、沖縄は日本の民俗学者の間で民俗学の「実習の空間」のように認識され、韓国の民俗学者の間にも、いつの間にか「沖縄へ沖縄へ」という学問的な傾向がみられるようになったのである。

最近「東アジア」を意識した地域研究が強調されている。このような動向とともに、韓国におけ

¹⁴ これにつながる主な研究は次のようなものである。

崔ジェソク「한국의 친족집단과 류구의 친족집단-주로 그 유사성과 전파를 중심으로 (韓国の親族集団と琉球の親族集団)」『高大論文集<人・社>』15, 高麗大学校, 1969. 崔吉城「韓琉민속비교를 위한 시각 (韓琉の民俗比較のための視角)」『日本学報』1, 韓国日本学会, 1983. 崔仁鶴「韓国.沖縄比較民俗学試考-민간신앙과 세시풍속을 중심으로 (韓国.沖縄比較民俗学試考)」『比較民俗学』創刊号, 比較民俗学会, 1985. 池春相「韓国と沖縄の綱引きにおける性戯性」(波平勇夫編『韓国と沖縄社会と文化』)第一書房, 2001. 崔吉城「韓琉민속비교를 위한 시각 (韓琉の民俗比較のための視角)」『日本学報』1, 韓国日本学会, 1983. 朴萬圭・林永珍・羅景洙・栗本吉本「호남과 오키나와의 문화 비교 연구: 세골장을 중심으로 (湖南と沖縄の文化の比較研究: 洗骨葬を中心に)」『南道民俗研究』6, 南道民俗学会, 2000. 李ギョンエ「제주도와 오키나와의 무속서사시 비교: 당신본풀이와 미야코지마의 후사를 중심으로 (濟州島と沖縄の巫俗叙事詩の比較: 堂神ボンブリと宮古島のフサを中心に)」『耽羅文化』34, 濟州大学校耽羅文化研究院, 2009.

¹⁵ Byeong Kug Yoon, Eun Young Choi, Hwa Yeon Ko, Ho Soon Kil, Seul Gi Lee 「민족적 연대감에 의한 여행상품 개발 모색-일본 오키나와의 삼별초와 홍길동을 중심으로 (民族的連帯感による旅行商品の開発を模索-日本の沖縄における三別抄と 洪吉童 を中心に)」『韓国写真地理学会誌』22卷2号, 2012, 韓国写真地理学会。

る沖縄民俗研究も新たな課題をかかえるようになってきているようである、筆者は、これからの沖縄民俗研究の課題として、沖縄古典文献の翻訳¹⁶、韓国の中国研究者の沖縄民俗への関心、韓国と沖縄の研究者交流の拡大などが必要であろうと思う。それらの成果の積み重ねの上に東アジア時代における民俗学研究の新たな可能性が模索されていくべきであろう。

4. 柳田國男研究における主な傾向

私は日本の民俗文化について勉強しながら、柳田國男の著作を取り上げた論文を書き¹⁷、そのかわり柳田國男の著作を韓国語に翻訳、紹介してきた¹⁸。もちろん私の他にも、韓国には柳田國男の学問や思想について研究してきた研究者がいる。ここでは、今まで韓国で発表された柳田國男についての研究論文と翻訳を中心に、韓国では柳田國男の学問や思想が、どのように取り上げられてきたのか、その主な傾向について述べたい。

韓国の研究者は、様々な観点から柳田國男を取り上げている。私の確認によると、韓国で発表された柳田國男研究の論文は約 30 本に上る¹⁹。論文の本数から言えば、かつての柳田國男と韓国民俗学(者)との関連、韓国民俗学者の柳田國男の学問や思想への関心、日本の人文社会系のアカデミズムにおける柳田國男の存在などを考慮するならば、充分ではないような印象を受ける。

発表された論文の内容を分析すると、柳田國男の一国民俗学、ナショナリズム、植民地主義などを批判的に検討したもの、主に祖霊信仰や民間信仰を分析した固有信仰論への関心、柳田民俗学の研究手法、柳田國男の思想や学問、日本民俗学における柳田國男の継承と克服など、多岐にわたっ

¹⁶ 例えば『中山世鑑』、『中山世譜』、『求陽』などの文献が翻訳されるべきであろう。

¹⁷ 参考までに、私が発表した論文のリストを記しておく。

「『도노 모노가타리』와 일본인의 이향관 (『遠野物語』と日本人の異郷観)」『日本学研究』21, 2007, 檀国大学校日本研究所。「『도노 모노가타리』의 요괴전승 (『遠野物語』の妖怪伝承)」『日本研究』31, 2007, 外国語大学校日本研究所。「일본의 근대화와 생활문화의 변용—야나기타 구니오 (柳田國男)의 『명치대정사 세상편(明治大正史 世相篇)』의 분석을 통하여 (日本の近代化と生活文化の変容—柳田國男의 『明治大正史 世相篇』의 분석)」『日本語文学』33, 2007, 韓国日本語文学会。「『도노 모노가타리』를 통해 본 인간과 자연의 공생관계 (『遠野物語』から見た人間と自然の共生関係)」『日語日文学研究』78, 2011, 韓国日語日文学会。「일본 도노지역 잣과전승의 관광상품화 양상 (日本の遠野地域における河童伝承の観光商品化の様相)」『日語日文学研究』82, 2012, 韓国日語日文学会。「이노우에 히사시『新釋遠野物語』의『遠野物語』 수용—「설화적 웃음」의 복원이라는 관점에서 (井上ひさしの『新釋遠野物語』における『遠野物語』의 수용—「説話の笑い」の復元という観点から)」『日本学研究』44, 2015, 檀国大学校日本研究所。

¹⁸ 次のような著作を翻訳して紹介した。『일본의 민담 (日本の昔話)』2002, 全南大学校出版部。『일본 명차·대정시대의 생활문화사 (明治大正史世相篇)』(共訳)2006, 소뮌出版。『도노 모노가타리 (遠野物語)』2009, 全南大学校出版部。『선조 이야기 (先祖の話)』2016, 全南大学校出版部。

¹⁹ 次の論文にまとめられた。「韓国における柳田國男関連論文一覧」を参照されたい。金容儀, 「韓国における柳田國男の研究」『韓国朝鮮の文化と社会』16, 2017, 風響社。

ている。論文の中で取り上げられた柳田國男の著作も、初期三部作の『後狩詞記』・『石神問答』・『遠野物語』をはじめとして、『民間伝承論』、『先祖の話』、『山の人生』など、実に多くの著作が引用されている。

筆者の調査によると、韓国における柳田國男研究の主な傾向は、三つに分けて考察することができるようである。第一は初期三部作の『後狩詞記』・『石神問答』・『遠野物語』についての研究である²⁰。初期三部作の中で、『後狩詞記』については、取り上げられたことがないが、これは韓国の民俗研究において、狩獵民俗についての研究が少ないことと関連があるかも知れない。

第二に固有信仰論についての研究である。この分野では、曹圭憲が柳田國男の信仰論についての再検討を試みた一連の論文を発表している²¹。また池映任の研究も見逃せないであろう。池映任は、富士川流域で行われる盆行事と施餓鬼供養の現地調査に基づき、柳田國男の固有信仰について再検討を試みている²²。

第三に柳田國男の一国民俗学、ナショナリズム、植民地主義などへの批判である²³。こうした研究の先鞭をとったのは崔吉城である。崔吉城は、まず柳田國男の著作の中で、朝鮮について言及した箇所を確認し、柳田國男の朝鮮観を検討した。また草創期の韓国民俗学の形成における柳田國男の影響について述べた²⁴。

²⁰ 例えば次のような研究がある。林泰弘「야나기타 쿠니오의 일본 민간신앙 이해『石神信仰』에 소개된 잡신을 중심으로 (柳田國男における日本の民間信仰の理解『石神信仰』に紹介された神を中心に)」『日本近代学研究』9, 2004, 韓国日本近代学会。

²¹ 例えば次のような研究がある。曹圭憲「일본문화일원론의 <논신과 산신의 거래>來 神앙」 재고 (日本文化一元論における「田の神と山の神の去來信仰の再考」)」『翰林日本学』14, 2009, 翰林大学校日本学研究所。曹圭憲「야나기타 민속학의 일본문화일원론 재고-사령신앙 제앙신을 중심으로 (柳田民俗学における日本文化一元論の再考-死靈信仰の祟り神を中心に)」『日本近代学研究』29, 2010, 日本近代学会。曹圭憲「일본 연중행사에서 역신 (厄神) 제사와 오본 (お盆) 의 연속성에 관한 고찰-조령신앙일원론의 극복을 위해 (日本の年中行事における厄神祭祀とお盆の連続性についての考察-祖靈信仰一元論の克服のために)」『日本語文学』50, 2011, 韓国日本語文学会。

²² 池映任「富士川流域における盆と施餓鬼供養の地域的変容-柳田國男の固有信仰論の再検討」『翰林日本学』20, 2012, 翰林大学校日本学研究所。

²³ 例えば次のような研究がある。南根祐「순국 이데올로기의 창출 (殉国イデオロギーの創出)」『日本思想』4, 2002, 韓国日本思想史学会。南根祐「야나기타 (柳田國男) 민속학과 식민주의: ‘조선민속학’에의 관여 문제와 관련하여 (柳田國男民俗学と植民地主義-朝鮮民俗学への関与問題と関連して)」『地方史と地方文化』9, 2006, 歴史文化学会。林慶澤「야나기타 쿠니오의 ‘일국민속학’과 식민주의에 관한 일고찰: 국가·민족인식과 아시아 인식을 중심으로 (柳田國男の一国民俗学と植民地主義に関する一考察-国家·民族認識とアジア認識を中心に)」『精神文化研究』27, 2004, 韓国学中央研究院。林慶澤「야나기타 쿠니오의 ‘일국민속학’과 문화 내셔널리즘: 단일민족론의 민속학적 형성과 전개 (柳田國男の一国民俗学と文化ナショナリズム) -單一民族論の民俗学的形成と展開」『日本思想』8, 2005, 韓国日本思想史学会。

²⁴ 崔吉城「柳田國男의国学思想과朝鮮 (柳田國男の国学思想と朝鮮)」『日本学报』27, 1991, 韓国日本学会。

ところで韓国研究者の柳田國男批判では、村井紀の『南島イデオロギーの発生』や川村湊の『「大東亜民俗学」の虚実』において展開された柳田國男批判が繰り返されている。村井紀や川村湊の柳田國男批判が、当時、日本国内だけではなく、韓国の研究者にも多くの影響を与えていたことがわかる。言いかえれば、韓国における柳田國男批判は外部からのものであり、「自生的」な批判ではなかったのである。そのせいか、韓国研究者による柳田國男批判には、どちらかといえば「批判のための批判」のような性格が強い。彼らは論文の中で柳田國男の著作を多く引用しているが、批判のための論理が先行し、柳田國男の著作がきちんと引用されていないものが多い。例えば柳田國男の一国民俗学、ナショナリズム、植民地主義の批判のために『先祖の話』が頻繁に取り上げられるが、その中には、『先祖の話』が正確に引用されていないものもある。言うならば、韓国の柳田國男研究では、テキストそのものよりもコンテキストのほうが重んじられてきたわけである。

柳田國男の文章は難解であると言われる。その意味で柳田國男研究にあたり、特にわれわれのような外国人は、柳田國男の著作を広くかつ深く読むことから始めるべきかも知れない。ここで柳田國男著作の「翻訳」の重要性が浮かび上がってくる。ここで言う翻訳とは、日本語がわからない人々に限られたことではないだろう。翻訳によって、より多くの研究者が柳田國男の学問や思想を共有し、議論が活発になるからである。

5. 結びにかえて

以上、私が関心をもっている研究分野及び研究主題を中心として、「韓国における日本研究の現状と展望」を考察してみた。ここでは、紙面の制約で詳しく述べることはできなかったが、現在韓国において「日本研究」がどのように進められているか、多少なりともご理解していただけたと思う。これから韓国の「日本研究」において、大学に設立された「日本研究所」への期待はますます高くなるであろうと展望する。また「東アジア研究」という観点からも、これから沖縄研究や柳田國男研究が盛んになることを期待したい。